

平成 26 年度 第 1 回 委員会議事録メモ

日 時：平成 26 年 6 月 6 日(金) 16:00~17:30

場 所：京都大学 楽友会館

出 席：山本 眞由美 (岐阜大学)、河邊 博史 (慶應義塾大学)、佐藤 武 (佐賀大学)、
西尾 彰泰 (岐阜大学)、林 多喜王 (北陸先端大学院大学)、
守山 敏樹 (大阪大学)

欠 席：吉川 弘明 (金沢大学)、中川 克 (立命館大学)

1. 委員長あいさつ

2. 昨年度の活動

- 1) キックオフミーティングを開催した (平成 25 年 6 月 14 日)
- 2) 国際交流特別委員会と委員会を合同開催した (平成 25 年 11 月 14 日)
- 3) ACHA 年次集会 (2013 年、ボストン) に参加した
(Campus Health へ報告文を投稿した) (神戸シンポの報告、日米スモールレセプション、会長講演) (平成 25 年 5 月 31 日)
- 4) JUHA で米国と英国の協会より招聘講演 (Dr. Anita Barkin、Dr. Irene Weinreb) を開催した (平成 25 年 11 月 13-14 日)
- 5) 留学生の健康管理実態調査を国際交流特別委員会と協働して実施した

3. 今年度の活動について

- 1) 留学生の健康管理実態調査結果を JUHA で報告予定 (平成 26 年 9 月 3-4 日)
- 2) 海外の事情調査をしてはどうか
- 3) ACHA (2014 年年次集会、サンアントニオで開催) より、共同国際比較研究の提案あり

4. その他フリーディスカッション

- 台湾で話を聞く機会があったが、全国的な協会組織はないようでメンタルヘルスに関する意識は、日本に比べると低い印象 (佐藤)
- 藪やひきこもりに焦点をあてた質問票を使って、米国・日本・アジアで比較調査してはどうか (佐藤)
- この委員会が橋渡しをして、日米それぞれのテーマについては、それぞれの専門家どうしが共同研究をする形になるか (林)

- 本当に質の良い共同研究を進めるためには、prospective study でなくては意味がないのでは（佐藤）
- どの程度の成果をめざすか、考える必要あり（川村）
- タバコは日米共通の興味だろうが、ドラッグはどうなっているのか。ドラッグの問題は、日本でも出てきているのではないか（河邊）
- 米国では「不登校」の問題がピンとこない様子。退学してしまうのかもしれない（西尾）
- 米国の方が経験を多く持っているテーマ（タバコ、ドラッグ、ネット依存など）について情報をもらいたい（河邊）
- 留学生向けのパンフレット、日本人学生が留学する際のパンフレットなどの作成をすすめたい（守山）
- （WHO の仕事に関わっているが）世界各地に出向している日本人の医務官が、ブログなどで有益で新しい情報を公開している。それを紹介するだけでも違うと思う（河邊）

～その他、ディスカッションをまとめると～

今後、米国との交流の中で日本側として興味があり、おそらく米国の方が多くの経験知を有しているだろうと思われる項目は以下の様なもの。

- 摂食障害
- 発達障害
- ドラッグ（危険薬物も含め）
- 依存（スマホ、ネット、ギャンブルなど）
- DV
- ヘルスポリシー
- 留学生への対応や支援（宗教や習慣を含め）など

日本の経験知として米国側へ提供できるのは以下の様なもの。

- 学生白書データ（BMI、喫煙率など含む）
- 休学・退学データ
- 健康診断体制とそのデータ・効果
- 健康診断証明書発行支援
- 血液検査データ
- 感染症予防対策
- メンタルスクリーニング など

今後、JUHA と ACHA でもう少し焦点を絞り、共同比較研究者の担当者を決めていけるとよい。

次回の9月の国際交流委員会との合同委員会で、包括的な活動について具体的な話を進めていくこととする。